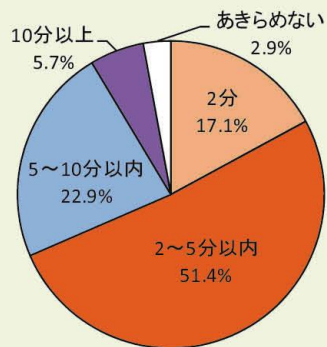


万全な防犯対策で自宅を守ろう

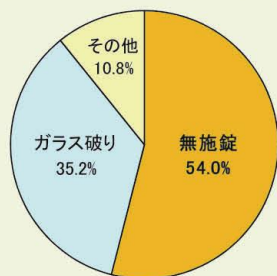
○ 泥棒に対する調査結果

侵入窃盗犯人（泥棒）に対して、「住宅等に侵入する場合、どれくらいの時間がかかれば侵入をあきらめるか。」と調査したところ、「2分」が17.1%
「2分を超え5分以内」が51.4%との回答であり、「侵入に5分かかると約7割の泥棒があきらめる」ことが調査結果から分かっています。



※(財)都市防犯研究センター「侵入盗の実態に関する調査報告書」より

○ 侵入手段（平成24~28年の既遂被害）



被害の約5割が無施錠の場所から侵入されており、また、約4割が窓ガラスを割られるなどして侵入されています。したがって、確実な施錠と、窓ガラスの強化により、住宅に侵入する泥棒の多くを撃退できることが分かります。

窓・ドア等への防犯対策

<窓ガラス、出入口の確実な施錠>

被害の約5割が無施錠の場所から室内に侵入されていますので、不在時、就寝時はもちろん在宅時でもエアコン等を上手に活用して確実に施錠しましょう。トイレや浴室等の小窓にも忘れずに施錠しましょう。



<窓ガラスへの補助錠と防犯フィルムの活用>

被害の約4割がガラス破りにより室内に侵入されていますので、窓ガラスを強化しましょう。

<小窓には格子を設置>

トイレや浴室等の小窓には、格子を設置しましょう。

<CP部品の活用>

警察庁、経済産業省、国土交通省及び建物部品関連の民間団体が構成される「官民合同会議」において、侵入までに5分以上の時間を要するなどの一定の防犯性能があると評価されたドア、窓、シャッター等の建物部品を活用しましょう。

「CP」Crime Prevention（防犯）の頭文字

<CPマーク>



屋外・庭への防犯対策

<鍵を敷地内に置いたまま外出しない>

植木鉢の下や郵便受け等に鍵を置いたままの外出は絶対にやめましょう。

<センサーライトの設置>

夜間、人通りを感知して点灯するセンサーライトは、泥棒を威嚇する効果があります。

<防犯カメラの設置>

被害時の状況が記録でき、泥棒を威嚇する効果もあります。

<足場をなくす>

植木や物置は、2階への侵入経路となるので位置を確認しましょう。

<死角をなくす>

敷地内は、高い塀や庭木による死角を作らないようにしましょう。

<防犯砂利の活用>

歩くと大きな音がする防犯砂利を活用しましょう。

<長期間の外出時は、新聞の配達を停止>

新聞が郵便受け等に溜まっていると泥棒に留守であることを悟られてしまいます。長期間留守にする場合は、新聞の配達を止めてもらうように手配しましょう。

その他の防犯対策

<「地域の目」で街を守る>

普段から近所での挨拶を励行し、近所付き合いを大切にして、「地域の目」で犯罪の起きにくい街をつくりましょう。

<見知らぬ人にも挨拶>

犯罪を犯そうとしている時に最も嫌がるのは、顔を認識されることです。犯人は、挨拶をされると犯罪を犯しにくくなりますので、見知らぬ人にも積極的に「こんにちは」等と挨拶をするように心掛けましょう。

<不審者を見かけたら110番通報>

近所を物色しているような不審者を見かけた場合は、ためらわず警察に通報してください。

